いなほ

令和４年１月２１日
令和３年度学校だより NO.44①
加古川市立平荘小学校

平荘小の狂言学習

平荘小学校の『狂言学習』は、今年度で２１年目を迎えています。

コロナ禍の中、昨年度の６年生は自分たちが先輩から引き継いできた『狂言』を、自分たち流に解釈し、表現の工夫をして演目を仕上げました。それが、「令和２年度狂言学習総まとめ」としてＤＶＤに収められています。

本校の特色である『狂言学習』は、平荘小学校の子どもたちはもちろんのこと、地域の方々からも大変大切に思っていただいています。

そして、平之荘神社や平荘小学校狂言学習後援会の皆様の多大なサポートをいただきながら、平荘小学校の伝統として大切に守られているのです。大変有り難いことです。

昨年度、コロナ禍でなかったならば、全校生や保護者、地域の皆様に頑張って練習をしてきた自分たちの姿を観ていただけていたことでしょう。

昨年度の６年生は、大変悔しい思いをしながらも、今の６年生に、平荘小学校の『狂言』をぜひ受け継いでもらいたいという思いで頑張ってきたことと思います。

そして、令和３年度。狂言学習を始めてから今年度で２１年目を迎えました。言葉で言うのは簡単ですが、２１年という年月と、その２１年間に平荘小学校の狂言学習に関ってこられた人たちのことを考えた時、どれだけ多くの方々がこの狂言学習を支えてこられたことだろうと、伝統の重みを感じます。

そして、２１年間変わることなく熱心に狂言のご指導を続けてくださっている山口耕道先生の存在を忘れてはならないと思います。山口耕道先生は、子どもたち一人一人の個性を大切にしながら全力で指導してくださいます。技術指導のみならず、人として大切なこともたくさん教えてくださっています。子どもたちにとって、このような貴重な機会をいただいていることに大変感謝申しあげます。

今年も、『平荘小学校狂言学習発表会』の時期がやってきました。令和３年度の６年生も、狂言学習発表会に向けて、全力で取り組んでいるところです。

現在、新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染拡大が急激に進み、大変心配されるところですが、健康安全を第一に考えながら、できることを精一杯頑張りながら、子どもたちを支援していきたいと思います。

６年生のみなさん。２月１７日（木）の『第２１回狂言発表会』に向けて、１か月を切りました。『練習は嘘をつかない』という言葉があります。本番に向けて練習を頑張りましょう。

≪１月１７日の狂言学習より≫

３学期初めての狂言学習です。最初に、発声練習を行いました。背筋を伸ばして、しっかりと口の開け閉めを意識し、口の体操を行いました。

特に、

「ら・れ・り・る・れ・ろ・ら・ろ」

「ぱ・ぺ・ぴ・ぷ・ぺ・ぽ・ぱ・ぽ」の発声が難しかったようです。

『ら行』は、舌の使い方に気をつけて、『ぱ行』は、一度口を閉じてから発声する等、丁寧に練習を行いました。

「あ・え・い・う・え・お・あ・お」
「か・け・き・く・け・こ・か・こ」

『演じる』とは

セリフを聞いている人たち（観客）に伝わるようにすることが大事。
セリフが聞いている人に届かないと、**演じている人が舞台の上で孤立してしまう**。孤立しないようにするためには、観客（の心）をよせる（つかむ）。

自分の言っているセリフは、誰に向かって言っているのかを自分の中で明らかにする。話している時の体の向きや目線も明確にする。（**自分の解釈が表現される**）

指し示す際には、何を指しているのか、誰を指しているのかを明確にし、体ごと見ることで、**説得力がでる**。

中途半端な動きは、観ている人を迷わせる。

演目の『附子』では、**『附子』を中心に据える**。そのためには、『附子』の入れ物をしっかり持ち、丁寧に置く。**観客の目線が自ずと『附子』の入れ物にくるようにする**。演じ手も『附子』を見、強調するようにする。

セリフの暗記から、表現者に！

６年生のみなさんは、セリフは覚えている。表現の仕方として、**どこに向かって言葉を発している**（「主人に向かってなのか」「附子に向かってなのか」「太郎冠者（次郎冠者）に向かってなのか」「独り言なのか」）**のかが理解できていないと説得力がない**。

早口言葉は、伝わらない。いつも聞いている人たち（観客）のことを意識していないと伝わらない。最初の場面で、登場人物３人の関係を観客に伝える。最初は、最後につながっている。

どういう心の動きで、その言葉（セリフ）になっているのかを自分なりに解釈することが大事だ。自分たちで、場面をつくっていってほしい。